ビューローベリタスジャパン株式会社 殿

建設住宅性能評価の検査を行うにあたり、施工状況報告書を提出します。 この施工状況報告書に記載する内容は、事実に相違ありません。

【鉄筋コンクリー	ト造等の共同住宅等用】
	ールサッスドルーサルル

※の欄を工事施工者が記入のこと

評価対象建築物の名称※	
評価対象建築物の所在地※	地名地番:
<b>计</b>	住居表示:
評価対象建築物の概要※	構造(造)階数(地下 階、地上 階)総住戸数(戸)
	住所
	氏名又は名称
工事施工者※	電話
	現場代理人氏名
	印

総合判定結果	(一次)	適・不適			(二次)	適・不適
検査年月日		平成	年	月	Ħ	
施工(管理)者署名						
検査者署名						
評価(責任)者署名						印

1. 住棟評価用		施工状況報告欄			※の欄を工事施工者が記入のこ 施工状況確認欄			
	性能表示事項※		変更有無※	関連図書※	確認内容※	検査 方法	判定一次	結果 二次
構造の安定	その他 耐震(その他) ロ 免震 ロ その他		□有	□ 施工図	<ul><li>□ 免震層</li><li>□ 免震材料</li><li>□ 上部構造</li><li>□ 下部構造</li><li>□ 落下・挟まれ防止</li><li>□ 表示</li><li>□ 管理に関する計画</li></ul>	С	適 ・ 不適	適 ・ 不適
火災時の 安全に関 すること	耐火等級 □ 等級3 □ 等級2 □ 等級1	□該当なし	□有	<ul><li>□ サッシ図</li><li>□ 認定書</li></ul>	□ 特定防火設備(令112条) □ 防火設備(第2条第9号2ロ) □ 防火設備(第64条) □ その他 □ ガラスの種別( )	A, C	適 ・ 不適	適 ・ 不適
	□ 等級4 □ 等級3 □ 等級2 □ 等級1	外壁の構造 軒裏の構造 □該当なし	□有	□ 施工写真 □ 施工写真 □ 施工写真 □ 施工写真	<ul><li>□ 外壁の構造(RC造厚さ7cm以上)</li><li>□ その他( )</li><li>□ 軒裏の構造(RC造厚さ7cm以上)</li><li>□ その他( )</li></ul>	A, C		
劣化に関 すること	劣化対策	外壁の 仕上げ材	□有		□ 外壁の仕上げ材	Α	適不適	適 不適
更新への 配慮に関 すること (:	対策等級 (共用配管) (共用配管) 等級3 等級2 (等級1	共用排水管 の掃除口と 点検措置	□有	□ 設備施工図	□ 共用立管の掃除口の位置は、最上階 又は屋上、最下階及び3階以内おきの 中間階、又は15m以内ごと こその他 □ 共用立管の点検(露出又は開口) □ その他 □ 横主管の掃除口の位置は15m以内 □ その他 □ 横主管の点検(露出又は開口) □ その他 □ 内面平滑かつ清掃に影響を及ぼすよ うなたわみ、抜けその他変形がない □ その他	A, C	· 不適	適・不適
	□ 等級3 □ 等級2 □ 等級1	配管点検口 (注1) 横主管の ピット内等	有	□ 設備施工図 □ 設備施工図	<ul><li>□ 排水管の接合部は点検口又は露出</li><li>□ その他</li><li>□ 給水管の接合部・バルブは点検口又は露出</li><li>□ その他</li><li>□ ガス管の接合部・バルブは点検口又は露出</li><li>□ その他</li><li>□ 人通口設置</li></ul>	A, C		
		の措置 配管補修 の措置 (注1) 排水管	□ 有	□ 設備施工図	<ul><li>□ その他</li><li>・排水管・給水管・ガス管</li><li>□ 露出</li><li>□ MB内又はPS内</li><li>□ ピット内又は天井内</li><li>はつり工事の軽減措置あり</li></ul>	A, C		
		貫通部 排水管 新たな 設置余地	□有	□ 施工図等	接続替えの措置等	A, C A, C	適不適	適不適
		排水管 立管位置	□ 有	□ 施工図等	□ 設置位置	A, C	適不適	適不適

(注1) 共用給湯管がある場合は別紙にて提出

その2. 住戸評価用 住戸タイプ名称

, H 170		
	<b>%</b> (	の欄を工事施工者が記入のこと

八五八岁	存住戸番号							
	性能表示		施工状況執	<b>设告欄</b>	施工状況確認欄			
	事項※	検査	変更	関連図書※	確認内容※	検査		結果
	* 7	項目※	有無※		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	方法	一次	二次
火災時の	感知警報	感知警報	□有	□ 納品書	□ 自火報又は同等品		適	適
安全に関	装置設置	設備		□ 施工図	□ 住警器又は同等品		•	٠
すること	等級				□ その他		不適	不適
	(自住戸)							
	□ 該当なし					A, C		
	口 等級4				<ul><li>□ 全ての居室、台所、階段</li><li>□ 廊下、階段又は一の居室、台所</li></ul>			
	口 等級3				□ 郎下、隋叔又は一の店主、百別			
	□ 等級2				□ での他 □ 警報部分の設置箇所(住戸内に設置)	-		
	□ 等級1			□ 施工図	□ 書報部分の設直固別(住戸内に設直) □ その他			
	感知警報	感知警報	□有	□納品書	• <b>感知器</b>	4	-	
	装置設置	設備	☐ 1Ħ	□ 施工図	□ 共同住宅用自火報、又は同等品			
	等級 (他住戸)	HZ VIII			□ 住戸用自火報、又は同等品			
					□ その他			
	□ 等級4				□ 感知器設置場所(当該階・直下の階)			
	□ 等級3				□その他	A, C		
□ 等級2 □ 等級1				· <b>警</b> 報機				
					□ 自動で鳴動			
					□ その他			
					□ 警報器設置場所(当該階・直下の階)			
					□ その他			
	避難安全	排煙形式	□有	□ 施工図	□ 開放型廊下			
	対策				□ 自然排煙			
					□ 機械排煙(一般)			
	□ 該当なし				□ 機械排煙(加圧式)			
					□ その他			
						A, C		
	25 L. L. Refer (ett	平面形状	□有	□ 施工図	□ 2方向避難型			
	耐火等級				□直通階段隣接型			
	(避難経路)	五十 1 2 2 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4			□ その他(注:この場合のみ耐火等級記入) □ 特定防火設備(令112条)	4		
		耐火等級(避難経路)	□有	□ サッシ図	□ 特定的欠款傭(¬112采) □ 防火設備(第2条第9号2口)			
	□ 等級2 □ 等級1	(地工夫世/社工)		□ 認定書	□ め久成備(第2来第3万2°c) □ その他			
		脱出対策	□有	□ 施工図	□ 直通階段に直接通ずるバルコニー	4	-	
	□ 該当なし		□ 19		□ 隣戸に通ずるバルコニー	A, C		
	L M=40				□ 避難器具( )	A, C		
維持管理	維持管理	専用排水管	□有	□ 設備施工図	□ 内面平滑かつ清掃に影響を及ぼすよ	1	適	適
1,100 L	対策等級		''		うなたわみ、抜けその他変形がない			
	(専用配管)				□ その他		不適	不適
	□ 等級3				□ 掃除口の設置	1	, ,,,,,,,	, ,,,,,,
	□ 等級2				□ 清掃可能な措置のトラップの設置	A, C		
	□ 等級1				_ □ その他			

□ 設備施工図

点検口

□ 設備機器との接合部の点検可能

□ 設備機器との接合部が露出
□ その他

#### 施工状況報告書【竣工時】

(第四面)

検査方法-A:実物の目視 B:実物の計測 C:施工関連図書の確認

住戸評価用 ※の欄を工事施工者が記入のこと 施工状況報告欄 施工状況確認欄 性能表示 検査 変更 検査 判定結果 事項※ 関連図書※ 確認内容※ 項目※ 有無※ 方法 一次 二次 躯体の断熱性能 □ 断熱材の種類( 温熱環境・エネル □ 納品書 口有 適 適 ギー消費量に関 断熱等性 等、結露防止及 □ 写真 □ 屋根の断熱構造 すること 能等級 び熱橋部対策 □ 施工図 □ 天井の断熱構造 不適 不適 □ 外壁・界壁の断熱構造 □ 等級4 □ 等級3 □ 床の断熱構造 開口部 □ ガラスの種類( □ 等級2 □有 □ 施工図 □ 等級1 □ 窓等の仕様( ) □ ドアの仕様( A, C □ 適用除外の窓の面積( 開口部の日射遮 🗆 有 □ 施工図 □ 庇・軒等の状態 蔽措置 □ 付属部材の設置状態 П □ 窓・ドアの仕様 □ 適用除外の窓の面積 □ 断熱材の種類( 躯体の断熱性能 □ 納品書 口有 適 一次エネル 等、結露防止及 □ 写真 □ 屋根の断熱構造 ギー消費量等級 び熱橋部対策 □ 施工図 □ 天井の断熱構造 不適 不適 □ 等級5 □ 外壁・界壁の断熱構造 □ 等級4 □ 床の断熱構造 開口部 □ 等級1 □有 □ 施工図 □ ガラスの種類( □ 窓等の仕様( □ 該当なし □ ドアの仕様( A, C □ 適用除外の窓の面積( 開口部の日射遮 □ 有 □ 庇・軒等の状態 □ 施工図 蔽措置 □ 付属部材の設置状態 П □ 窓・ドアの仕様 □ 適用除外の窓の面積 設備機器に係る □ 有 □ 納品書 □ 暖房方式 概要 □ 設備図 □ 冷房方式 □ 施工図 □ 換気設備方式 □ 工事写真 □ 給湯設備 □ 照明設備 □ カタログ □ 太陽光発電設備等

□ コージェネレーション設備

# 施工状況報告書【竣工時】 (第五面)

検査方法—A:実物の目視 B:実物の計測 C:施工関連図書の確認

住戸評価用					※の欄をエ	.事施工者	が記入	、のこと
空気環境 に関する こと	ホルム アルデヒト 対策 (居室) 等級3 □ 等級2 □ 等級1 (天井裏等)	内装及び 天井裏等	□有	□ 出荷証明書 □ 工場認定書 □ 自社成績書 □ 第三者機関 試験成績書 □ 認定印写真	居室     製材等     特定建材     その他     特定建材    JIS表示(F )  屋根裏等     製材     特定建材     特定建材     特定建材     特定建材     特定建材     特定建材     特定建材     一	A, C	適・適不適	適
	換気対策	居室の 換気対策	□有□	□ 施工図 □ 施工図 □ 施工図 □ サッシ図 □ オ建図	□ 特定建材 JIS表示(F ) □ 特定建材 JIS表示(F ) □ 換気方式(第1種) □ 換気方式(第3種) □ 機気方式(第3種) □ 端末換気口の設置 □ ドアのアンダーカット、又は開口 □ 開口部の位置と大きさ □ ドアのアンダーカット、又は開口	A, C		
		局所換気 対策	□有□	施工図  施工図  施工図  施工図  施工図	□ 機械換気・自然換気以外の方法 □ 台所の機械換気有り □ 台所の機械換気無し □ 台所の換気窓無し □ 台所の換気窓無し □ 浴室の機械換気無し □ 浴室の機械換気無し □ 浴室の換気窓有り □ 浴室の換気窓無し □ 便所の機械換気無し □ 便所の機械換気無し □ 便所の機械換気無し □ 便所の機械換気無し □ 便所の機械換気無し □ 便所の機械換気無し □ 便所の機気窓無し	A, C		
東:( 南:( 西:(		単純開口率 方位別 開口比	有	□ 計算書 □ 施工図 □ 計算書 □ 施工図	<ul> <li>□ 居室の床面積の合計 ( m²)</li> <li>□ 居室の開口部面積の合計 ( m²)</li> <li>□ 単純開口率 ( %)以上</li> <li>□ 方位別開口部面積の合計 東 ( m²)南 ( m²) 西 ( m²) 北 ( m²)</li> <li>酉 其上 ( m²)</li> <li>□ 建物の位置及び方位</li> </ul>	A, C	· 不適	· 不適

その2. 住戸評価用

性能表示   事項※   検査   変更   横査   横査   対法   大法   一次   三次   三次   三次   三次   三次   三次   三次	事項※ 高齢者等への配 慮に関すること ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	検査 項目※	変更 有無※			検査	判定	結果
有無※   対理図音※   有無※   対理図音※   作誌の名※   方法   一次 二次   二次   二次   二次   二次   二次   二次	高齢者等への配 慮に関すること 配慮対策 等級 (専用部分	項目※	有無※	関連図書※	確認内容※	( 便	刊化	加木
慮に関すること 配慮対策 等級 □該当 □	慮に関すること 配慮対策 等級 (専用部分	階段	口 右			方法	一次	
		無し		階段施工図	□ 階段幅750mm以上 □ 階段幅1200mm以上 □ けあげ230mm以下 □ 踏面150mm以上	A, B A, B	適	二次 適

その2. 住戸評価田

検査方法—A: 実物の目視 B: 実物の計測 C: 施工関連図書の確認 ※の欄を工事施工者が記入のこと

その2.住戸評価	四用 T	υ.		tou .	※の欄を工事施工者が記入のこと				
	性能表示		工状況報告	懶	施工状況確認欄	П	Val —	m	
	事項※	検査 項目※	変更 有無※	関連図書※	確認内容※	検査 方法	判定一次	結果 二次	
高齢者等への配 慮に関すること	高齢者等配慮対策等級(共用部分)	共用廊下	□ 有	□ 手摺施工図□ 躯体図	<ul><li>□ 転落防止手摺高さ 床面から1100mm以上</li><li>□ 傾斜路の勾配1/8以下</li><li>□ 該当無し</li><li>□ 有効幅員1200mm以上</li></ul>	A, B A, B	適 ・ 不適	適 ・ 不適	
	等級1	共用階段	□有	□ 階段施工図	□ 有効幅員1600mm以上 □ 蹴上げ200mm以下 路面240mm以上 階段幅1200mm以上	A, B	適・	適	
					□ 蹴上げ220mm以下 踏面210mm以上 階段幅750mm以上 □ 手摺又は側壁の設置	A	不適	不適	
							-		
							-		
							-		
							-		
							-		
							- -		
							- - -		
							- -		
		***	2. ********* - 0	ージに記入するこ					

### 施工状況報告書【竣工時】

(第六面)

検査方法—A: 実物の目視 B: 実物の計測 C: 施工関連図書の確認

その2. 住戸評価用 ※の欄を工事施工者が記入のこと 施工状況報告欄 施工状況確認欄 性能表示 判定結果 検査 変更 検査 事項※ 関連図書※ 確認内容※ 項目※ 有無※ 方法 一次 二次 □ 特定寝室と同一階に便所を配置 高齢者等への配 高齢者等 部屋の配置 □有 □ 内装施工図 適 適 慮に関すること □ 沓ずりと玄関外側の段差20㎜以下 配慮対策 段差 口有 □ 内装施工図 A, B □ 沓ずりと玄関土間段差5mm以下 等級 A, B 不適 不適 浴室出入口の段差 A, B (専用部分) □ 単純段差20mm以下 高低差120mm以下、またぎ高さ180mm以下 等級2 かつ手摺設置 ・非接地階のバルコニー出入口段差 A, B □ 単純段差180mm以下 □ 単純段差250mm以下、かつ手摺設置 □ またぎ段差180mm以下かつ手摺設置 □ 階段幅750㎜以上 階段 □有 □ 階段施工図 A, B 適 適 □ 階段幅1200mm以上 □ 勾配22/21mm以下かつ A, B 不適 不適 550mm≦ 蹴上×2+踏面≦650mm かつ195mm≦踏面 □ ホームエレベーター設置 □ 蹴込み寸法30㎜以下 A, B □ ホームエレベーター設置 □ まわり階段以外 Α □ まわり階段で狭いほうから30cmの位 置で規定寸法を確保 □有 手摺 □ 内装施工図 □ 階段手摺の設置(勾配45° 超は両側) Α □ 該当無し □ 階段手摺高700mm~900mm A, B □ 該当無し 適 適 □ 便所手摺設置 Α □ 浴槽出入のための手摺設置 不適 不適 Α □ 玄関手摺設置、又は下地補強あり Α □ 脱衣室手摺設置、又は下地補強あり Α

性能表示事項※     検査項目※     変更有無※     関連図書※     確認内容※     検査方法       への配高齢者等配慮対策の手摺     転落防止のための手摺の手摺     「床面から1100mm以上     A、B		*結果	
項目:※   有無:※   対理図音:※   方法   方法		検査 判定結果	
への配 高齢者等 転落防止のため □ 有 □ 手摺施工図 ・バルコニー転落防止のための手摺 A、B ること 配慮対策 の手摺 □ 床面から1100mm以上	//\text{\range }		
等級	一	<b>二</b> 次 適	

その2. 住戸評価用

※の欄を工事施工者が記入のこと

その2.任尸評(	性能表示	検査	変更	関連図書※	************************************	検査		結果
→ IIV → MY ~ ~ マコ	事項※	項目※	有無※			方法	一次	二次
高齢者等への配 慮に関すること	高齢者等配慮対策等級 (共用部分) 等級2	共用廊下	有	□ 手摺施工凶	<ul> <li>□ 手摺高さ700mmから900mm</li> <li>□ 転落防止手摺床面から1100mm以上650mm≤腰壁高さ&lt;1100mm</li> <li>□ 転落防止手摺腰壁から1100mm以上腰壁高さ&lt;650mm</li> <li>□ 1階住戸</li> <li>□ 手摺子内法110mm以下</li> </ul>	A, B A, B	不適	適 ・ 不適
				□該当無し				
				□ 躯体図	□ 経路上の段差なし	А,В		
				<ul><li>□ 経路上の高低差なし</li><li>□ 経路上の高低差あり</li><li>(勾配1/12以下、又は高低差80mm 以下なら1/8以下)</li></ul>	A, B			
					□ 有効幅員1200mm以上 □ 有効幅員1600mm以上	A, B		
		共用階段	□ 有	□階段施工図	□ 有効幅員1000mm以上 □ 有効幅員900mm以上 □ 有効幅員750mm以上	A, B		
					<ul><li>□ 踏面240mm以上かつ</li><li>550mm≤蹴上×2+踏面≤650mm</li><li>□ エレベーター利用可</li></ul>	A, B		
				<ul><li>□ 蹴込み寸法30mm以下</li><li>□ エレベーター利用可</li><li>□ 最上段の食込み無し</li></ul>	A, B	· 不適	· 不適	
				□ 最下段の突出無し □ 手摺の設置700mm~900mm	A A, B	1 25	1 125	
					<ul><li>□ 転落防止手摺段鼻から1100mm以上 650mm≤腰壁高さ&lt;1100mm</li><li>□ 転落防止手摺腰壁から1100mm以上 腰壁高さ&lt;650mm</li></ul>	A, B		
					□ 手摺子内法110mm以下 □ 該当無し	A, B		

# 施工状況報告書【竣工時】

(第六面)

検査方法-A: 実物の目視 B: 実物の計測 C: 施工関連図書の確認

その2. 住戸評価用 ※の欄を工事施工者が記入のこと 施工状況報告欄 施工状況確認欄 性能表示 判定結果 検査 変更 検査 事項※ 関連図書※ 確認内容※ 項目※ 有無※ 方法 一次 二次 □ 特定寝室と同一階に便所を配置 高齢者等への配 高齢者等 部屋の配置 □有 □ 内装施工図 適 適 慮に関すること □ 沓ずりと玄関外側の段差20㎜以下 配慮対策 段差 口有 □ 内装施工図 A, B □ 沓ずりと玄関土間段差5mm以下 等級 A, B 不適 不適 浴室出入口の段差 A, B (専用部分) □ 単純段差20mm以下 高低差120mm以下、またぎ高さ180mm以下 等級3 で手摺設置 ・非接地階のバルコニー出入口段差 A, B □ 単純段差180mm以下 □ 単純段差250mm以下、かつ手摺設置 □ またぎ段差180mm以下かつ手摺設置 □ 階段幅750㎜以上 階段 □有 □ 階段施工図 A, B 適 適 □ 階段幅1200mm以上 □ 勾配22/21mm以下、かつ A, B 不適 不適 550mm≦ 蹴上×2+踏面≦650mm かつ195mm≦踏面 □ ホームエレベーター設置 □ 蹴込み寸法30mm以下 A, B □ ホームエレベーター設置 □ まわり階段以外 Α □ まわり階段で狭いほうから30cmの位 置で規定寸法を確保 □有 手摺 □ 内装施工図 □ 階段手摺の設置(勾配45° 超は両側) Α □ 該当無し □ 階段手摺高700mm~900mm A, B □ 該当無し 適 適 □ 便所手摺設置 Α □ 浴槽出入のための手摺設置 不適 不適 Α □ 玄関手摺設置、又は下地補強あり Α □ 脱衣室手摺設置、又は下地補強あり Α

その2. 住戸評価用

(重力伝-A・美物の自悦 B・美物の前側 C・旭工関連図書の推診 ※の欄を工事施工者が記入のこと

その2.住尸評位		描	工状況報告	櫑	※の欄を工事施工者が記入のこと 施工状況確認欄			
	性能表示	検査	変更			検査	判定	結果
	事項※	項目※	有無※	関連図書※	確認内容※	方法		二次
高齢者等への配 慮に関すること	高齢者等 配慮対策 等級 (専用部分) <b>等級3</b>	転落防止のため の手摺	□有	□ 手摺施工図	・バルコニー転落防止のための手摺  □ 床面から1100mm以上 650mm≦腰壁高さ<1100mm  □ 腰壁から800mm以上 300mm≦腰壁高さ<650mm  □ 床面から1100mm以上 腰壁高さ<300mm	A, B		
					・2階以上の窓転落防止のための手摺 □ 床面から800mm(3階以上1100mm)以上 650mm≦窓台高さ<750mm(3階以上800 □ 窓台から800mm以上 300mm≦窓台高さ<650mm □ 床面から1100mm以上 窓台高さ<300mm □ 該当無し ・廊下・階段転落防止のための手摺	A, B	適・不適	適・不適
		通路及び出入口 の幅員	□有	□ 内装施工図	<ul><li>□ 柱等の箇所750mm以上</li><li>□ 玄関出入口750mm以上</li><li>□ 浴室出入口600mm以上</li><li>□ その他の出入口750mm以上</li></ul>	A, B A, B A, B A, B	適 ・ 不適	適・不適
		寝室、便所 及び 浴室	□有	□ UB施工図 □ 内装施工図	(軽微な改造を含む)  ☆室は短辺の内法1200mm以上、かつ、内法面積1.8㎡以上  便所の長辺1300mm以上(軽微な改造含  便器の前方、又は側方に500mm以上 (ドアの開放、又は軽微な改造による長さを含む)  便器の形式は腰掛式  特定寝室内法面積9㎡以上	A, B A, B A, B	適 ・ 不適	適 • 不適

その2.住戸評価		T		1	※の欄を工		か記人のこと 判定結果		
	性能表示事項※	検査 項目※	変更 有無※	関連図書※	確認内容※	₩検査 対法			
古典之然 - の町	• ,	共用廊下	14 4		□ 手摺高さ700mmから900mm		一次	二次	
高齢者等への配慮に関すること	<b>共用</b> 關 下	有	□ 于指爬工凶	<ul> <li>□ 手指高さ700mmから900mm</li> <li>□ 転落防止手摺床面から1100mm以上650mm≤腰壁高さ&lt;1100mm</li> <li>□ 転落防止手摺腰壁から1100mm以上腰壁高さ&lt;650mm</li> <li>□ 1階住戸</li> <li>□ 手摺子内法110mm以下</li> </ul>	A, B A, B	不適	· 不適		
			□ 躯体図	<ul><li>□ 該当無し</li><li>□ 経路上の段差なし</li><li>□ 経路上の高低差なし</li></ul>	A, B				
					<ul><li>□ 経路上の高低差あり (勾配1/12以下、又は高低差80mm以下なら1/8以下)</li><li>□ 有効幅員1200mm以上</li></ul>	A, B			
		共用階段	□ 有	□階段施工図	□ 有効幅員1600mm以上 □ 有効幅員1200mm以上 □ 有効幅員900mm以上 □ 有効幅員750mm以上	А, В	適・	適・	
					□ 階面240mm以上かつ 550mm≤蹴上×2+階面≤650mm □ エレベーター利用可	A, B	不適	不適	
					□ 蹴込み寸法30mm以下 □ エレベーター利用可 □ 最上段の食込み無し	A, B			
					□ 最下段の突出無し □ 手摺の設置700mm~900mm □ 転落防止手摺段鼻から1100mm以上 650mm≤腰壁高さ<1100mm □ 転落防止手摺腰壁から1100mm以上	A A, B A, B			
			,		腰壁高さ<650mm □ 手摺子内法110mm以下 □ 該当無し	А, В			
		エレベーター	有	□ EV施工図	<ul><li>□ 出入口幅800以上</li><li>□ エレベーターホール1500角以上</li><li>□ 経路上の段差なし</li><li>□ 経路上の高低差なし</li><li>□ 経路上の高低差あり</li></ul>	A, B A, B A, B A, B	· 不適	· · · 不適	
				(幅員900mm以上の傾斜路(勾配1/12以下)と段が併設、又は、幅員1200mm以上の傾斜路(勾配1/15以下又は高低差80mm以下なら1/8以下))					

(第六面)

検査方法—A: 実物の目視 B: 実物の計測 C: 施工関連図書の確認

その2. 住戸評価用

※の欄を工事施工者が記入のこと

	<u>曲用</u> 【	+	施工状況報告	櫑	※の欄を工事施工者が記入のこと 施工状況確認欄				
	性能表示		変更			検査	判定	結果	
	事項※	項目※	有無※	関連図書※	確認内容※	方法	一次		
高齢者等への配 慮に関すること	高齢者等 配慮対策 等級	部屋の配置	有	□ 内装施工図	<ul><li>□ ホームエレベーター設置、かつ、 特定寝室と同一階に便所を配置 (ホームエレベーター出入口の幅750mm以</li></ul>	A	· 不適	適 ・ 不適	
(	(専用部分) <b>等級4</b>	段差	□有	□ 内装施工図	上(通路より直進の場合650mm以上)) □ 沓ずりと玄関外側の段差20mm以下 □ 沓ずりと玄関土間段差5mm以下 □ 上がり框の段差110mm以下 (接地階は180mm以下) □ 浴室出入口の単純段差20mm以下 ・接地階のバルコニー出入口段差 □ 単純段差180mm以下 □ 単純段差250mm以下、かつ手摺設置	A, B A, B A, B A, B	· 不適	· 不適	
		階段	□有	□ 階段施工図	□ またぎ段差180mm以下かつ手摺設置 ・非接地階のバルコニー出入口段差 □ 単純段差180mm以下 □ 階段幅750mm以上	A, B A, B	適	適	
					<ul> <li>□ 階段幅1200mm以上</li> <li>□ 勾配6/7以下、かつ、550mm ≤ 蹴上×2+踏面≤650mm</li> <li>□ ホームエレベーター設置</li> <li>□ 蹴込30mm以下、かつ、蹴込板設置</li> <li>□ まわり階段以外の形式、かつ、最上段の食込み無し、最下段の突出無し</li> </ul>	A, B A, B	不適	不適	
		手摺	有	□ 内装施工図		A A A A A	適・不適	適・不適	

その2. 住戸評価用

※の欄を工事施工者が記入のこと

		施	工状況報告	欄	施工状況確認欄				
	性能表示事項※	検査 項目※	変更 有無※	関連図書※	確認内容※	検査 方法	判定一次	結果 二次	
高齢者等への配 高齢者等配慮対策等級 (専用部分) 等級4	配慮対策等級(専用部分)	転落防止のため の手摺	□有	□ 手摺施工図	・バルコニー転落防止のための手摺  □ 床面から1100mm以上 650mm≦腰壁高さ<1100mm  □ 腰壁から800mm以上 300mm≦腰壁高さ<650mm  □ 床面から1100mm以上 腰壁高さ<300mm	A, B	· 不適	· 不適	
					・2階以上の窓転落防止のための手摺  □ 床面から800mm(3階以上1100mm)以上 650mm ≦窓台高さ<750mm(3階以上800 □ 窓台から800mm以上 300mm ≦窓台高さ<650mm □ 床面から1100mm以上 窓台高さ<300mm	A, B			
					<ul> <li>・廊下・階段転落防止のための手摺</li> <li>□ 床面・踏面先端から800mm以上 650mm≤腰壁高さ&lt;800mm</li> <li>□ 腰壁から800mm以上 腰壁高さ&lt;650mm</li> <li>□ 該当無し</li> </ul>	A, B			
					<ul><li>□ 手摺子内法110mm以下</li><li>□ 該当無し</li></ul>	A, B			
		通路及び出入口 の幅員	□有	□ 内装施工図	□ 最小有効幅780mm以上 □ 柱等の箇所750mm以上	A, B	適	適・	
					<ul><li></li></ul>	A, B A, B A, B	不適	不適	
		寝室、便所 及び 浴室	□有	□ UB施工図	(工事を行わない報本を含む)  浴室は短辺の内法1400mm以上、かつ、内 法面積2.5㎡以上	A, B			
		III E		□ 内装施工図	□ 便所短辺の内法1100mm以上、長辺1300 mm以上(軽微な改造含む) □ 便器の前方及び側方に500mm以上 (ドアの開放又は軽微な改造による長さ	A, B	適	適	
					(ドアの開放又は軽減な以近による長さを含む)  □ 便器の形式は腰掛式	A	旭	迴	
					□ 特定寝室内法面積12㎡以上	A	不適	不適	

(第八面)

検査方法-A: 実物の目視 B: 実物の計測 C: 施工関連図書の確認

その2. 住戸評価用 ※の欄を工事施工者が記入のこと 判定結果 検査 性能表示 検査 変更 関連図書※ 確認内容※ 方法 有無※ 車項※ 項目※ 一次 高齢者等への配 高齢者等 共用廊下 □有 □ 手摺施工図 □ 手摺高さ700mmから900mm A, B 滴 適 慮に関すること 配慮対策 □ 転落防止手摺床面から1100mm以上 A, B 等級 650mm≦腰壁高さ<1100mm 不谪 不適 □ 転落防止手摺腰壁から1100mm以上 (共用部分) 腰壁高さ<650mm □ 1階住戸 等級4 □ 手摺子内法110mm以下  $\overline{A \setminus B}$ □ 該当無し □ 経路上の段差なし □ 躯体図 Α □ 経路上の高低差なし A, B □ 経路上の高低差あり (幅員900mm以上の傾斜路(勾配1/12以 下)と段が併設、又は、幅員1200mm以上の 傾斜路(勾配1/15以下又は高低差80mm 以下なら1/8以下) □ 有効幅員1200mm以上 A, B □ 有効幅員1600㎜以上 □ 有効幅員1200mm以上 共用階段 □有 □ 階段施工図 A, B 適 適 □ 有効幅員900mm以上 □ 有効幅員750mm以上 不適 不適 □ 踏面240mm以上、かつ A, B 550mm≤蹴上×2+踏面≤650mm □ 蹴込30mm以下、かつ、蹴込板設置 A, B □ 最上段の食込み無し Α □ 最下段の突出無し Α □ 手摺の設置700㎜~900㎜ A, B転落防止手摺段鼻から1100mm以上 A, B650mm≦腰壁高さ<1100mm □ 転落防止手摺腰壁から1100mm以上 腰壁高さ<650mm □ 手摺子内法110mm以下 □ 該当無し エレベーター 口有 □ EV施工図 □ 出入口幅800以上 A, B 適 適 □ かご奥行寸法内法1350mm以上 A, B □ エレベーターホール1500角以上 □該当なし A, B 不適 不適 □ 経路上の段差なし A, B□ 経路上の高低差なし A, B □ 経路上の高低差あり (幅員900mm以上の傾斜路(勾配1/12以 下)と段が併設、又は、幅員1200mm以上の 傾斜路(勾配1/15以下又は高低差80mm 以下なら1/8以下))

(第七面) は選択した等級のページに記入すること。 (第六面)

その2. 住戸評価用

※の欄を工事施工者が記入のこと

その2. 任尸評1	щ/1 <b>3</b>	1/41	工状況報告	選	※の欄を工事施工者が記入のこる 施工状況確認欄				
	性能表示	検査		1期	ルヒユー1人(ノレヤ住命公1州	松木	和完	結果	
	事項※	快宜 項目※	変更 有無※	関連図書※	確認内容※	検査 方法		二次	
慮に関すること	高齢者等 配慮対策 等級	部屋の配置	有	□ 内装施工図	<ul> <li>□ 特定寝室と同一階に玄関・便所・浴室・食事室・脱衣室・洗面所を配置</li> <li>□ ホームエレベーター設置、かつ、特定寝室と同一階に便所・浴室を配置</li> <li>□ (ホームエレベーター出入口の幅750mm以上(通路より直進の場合650mm以上))</li> </ul>	Α	· 不適	· 不適	
	(専用部分) <b>等級5</b>	段差	□有		□ 沓ずりと玄関外側の段差20mm以下 □ 沓ずりと玄関土間段差5mm以下 □ 上がり框の段差110mm以下 □ (接地階は180mm以下) □ 浴室出入口の単純段差5mm以下 □ パルコニー出入口段差は単純段差180mm以下	A, B A, B A, B A, B	· 不適	· 不適	
		階段	□有	□階段施工図	□ 階段幅750mm以上 □ 階段幅1200mm以上	A, B	適	適 •	
					<ul><li>□ 勾配6/7以下、かつ、 550mm ≤ 蹴上×2+踏面≤650mm ホームエレベーター設置</li><li>□ 蹴込30mm以下、かつ、蹴込板設置</li><li>□ まわり階段以外の形式、かつ、最上</li></ul>	A, B A, B	不適	不適	
		- 131			段の食込み無し、最下段の突出無し □ 滑り止め無し、又は滑り止めが 踏面と同一面 □ 段鼻の出無し(60°~90°の傾斜)	A			
		手摺	□ 有	□ 内装施工図	<ul><li>□ 階段手摺の両側設置</li><li>□ 該当無し</li><li>□ 階段手摺高700mm~900mm</li><li>□ 該当無し</li><li>□ 便所手摺設置</li><li>□ 浴室出入・浴槽出入・浴槽内・洗場の手摺設置</li><li>□ 玄関手摺設置</li><li>□ 成室手摺設置</li><li>□ 脱衣室手摺設置</li></ul>	A A A A A	でである。	適 • 不適	

その2.住戸評価	щ/T3	₽fe:	工状況報告	盟	※の欄を工事施工者が記入のこと 施工状況確認欄				
	性能表示		工队/  変更	阑	旭山水侃雅祕惻	検査	判定	<b>壮里</b>	
	事項※	項目※	发史 有無※	関連図書※	確認内容※	方法		二次	
等級 (専用	配慮対策	転落防止のため の手摺	□有	□ 手摺施工図	・バルコニー転落防止のための手摺  □ 床面から1100mm以上 650mm≦腰壁高さ<1100mm  □ 腰壁から800mm以上 300mm≦腰壁高さ<650mm	A, B	適 ・ 不適	· ·	
	等級5				<ul> <li>□ 床面から1100mm以上</li> <li>腰壁高さ&lt;300mm</li> <li>・2階以上の窓転落防止のための手摺</li> <li>□ 床面から800mm(3階以上1100mm)以上</li> <li>650mm≤窓台高さ&lt;750mm</li> </ul>	А, В			
					(3階以上800mm) □ 窓台から800mm以上 300mm≦窓台高さ<650mm □ 床面から1100mm以上 窓台高さ<300mm □ 該当無し				
					・廊下・階段転落防止のための手摺  □ 床面・踏面先端から800mm以上 650mm≤腰壁高さ<800mm  □ 腰壁から800mm以上 腰壁高さ<650mm	A, B			
					<ul><li>□ 該当無し</li><li>□ 手摺子内法110mm以下</li><li>□ 該当無し</li></ul>	А, В			
		通路及び出入口 の幅員	□有	□ 内装施工図	<ul><li>□ 柱等の箇所800mm以上</li></ul>	A, B	適	適	
					<ul><li>□ 玄関出入口800mm以上</li><li>□ 浴室出入口800mm以上</li><li>□ その他の出入口800mm以上</li><li>(工事を伴わない撤去を含む)</li></ul>	A, B A, B A, B	不適	不適	
		寝室、便所 及び 浴室	□有	□ UB施工図	<ul><li>□ 浴室は短辺の内法1400mm以上、</li><li>かつ、内法面積2.5㎡以上</li></ul>	A, C	適	適	
				□ 内装施工図	<ul><li>(工事を伴わない撤去を含む)</li><li>□ 背壁から便器先端+500mm以上</li><li>(工事を伴わない撤去を含む)</li></ul>	A, B	不適	不適	
					□ 便器の形式は腰掛式 □ 特定寝室内法面積12㎡以上	A A, B			

(幅員1200mm以上の傾斜路(勾配1/12以 下)と段が併設、又は幅員1200mm以上の 傾斜路(勾配1/15以下又は高低差80mm

その2. 住戸評価用 ※の欄を工事施工者が記入のこと 施工状況報告欄 施工状況確認欄 性能表示 判定結果 変更 検査 検査 事項※ 関連図書※ 確認内容※ 項目※ 有無※ 方法 -次 二次 高齢者等への配 高齢者等 □ 手摺施工図 □ 手摺高さ700mmから900mm A, B 適 適 慮に関すること 配慮対策 □ 転落防止手摺床面から1100mm以上 A, B 等級 650mm≦腰壁高さ<1100mm 不適 不適 □ 転落防止手摺腰壁から1100mm以上 (共用部分) 腰壁高さ<650mm 等級5 □ 1階住戸 □ 手摺子内法110mm以下 A, B □ 該当無し □ 躯体図 □ 経路上の段差なし Α □ 経路上の高低差なし A, B □ 経路上の高低差あり (幅員1200mm以上の傾斜路(勾配1/12以 下)と段が併設、又は幅員1200mm以上の 傾斜路(勾配1/15以下又は高低差80mm 以下なら1/8以下)) □ 有効幅員1400mm以上 A, B □ 有効幅員1600mm以上 共用階段 □有 □ 階段施工図 □ 有効幅員1200mm以上 A, B 適 適 □ 有効幅員900mm以上 □ 有効幅員750㎜以上 不適 不適 □ 勾配7/11以下、かつ A, B 550mm≤蹴上×2+踏面≤650mm □ 蹴込20mm以下、かつ、蹴込板設置 A, B □ まわり階段以外の形式、かつ、最上 Α 段の食込み無し、最下段の突出無し □ 滑り止め無し、又は滑り止めが踏面と同 Α □ 段鼻の出無し(60°~90°の傾斜) □ 手摺を両側に設置700mm~900mm A, B 転落防止手摺段鼻から1100mm以上 A, B 650mm≦腰壁高さ<1100mm □ 転落防止手摺腰壁から1100mm以上 腰壁高さ<650mm □ 手摺子内法110mm以下 A, B □ 該当無し エレベーター □ EV施工図 □ 出入口幅800㎜以上 A, B 適 滴 □ かご奥行寸法内法1350mm以上 A, B エレベーターホール1500mm角以上 □該当なし A, B 不適 不滴 □ 経路上の段差なし A, B □ 経路上に高低差なし A, B □ 経路上の高低差あり

以下なら1/8以下)) (第六面) (第七面) は選択した等級のページに記入すること。

_住戸評価用	※の欄を工事施工者が記入のこと
住戸タイプ名称	
検査対象住戸番号	

			施工状	: 沢報告欄	施工状況確認欄			$\neg$
	性能表示	検査項目	変更			検査	判定	結果
	事項※	*	有無※	関連図書※	確認内容※	方法	一次	
防犯に関すること	開口部	住戸の出入口	□有	□ 施工図	□ 戸・ガラスの性能・施工状態	A, C	適	適
	侵入防止	[区分a]		□製作図	□ 錠の数・性能・仕様・設置状態	A, C	•	•
	対策	□ 対策あり		1	□ 雨戸等の性能・施工状態	A, C	不適	不適
		□ 雨戸等含む		· ·				
	( 階)	□ その他		1				
		□ 開口部なし		'	<u></u>		l	l!
		外部からの接近 開		□ 施工図	□ サッシの性能・施工状態	A, C		
		が比較的容易  「別ない」  「「「「「「「「「「」」」  「「「「」」  「「「」」  「「「」」  「「「」」  「「」」  「「「」」  「「」」  「「「」」  「「」」  「「」」  「「」」  「「」」  「「」」  「「  「		□ 製作図	□ ガラスの性能・施工状態	A, C		
		な開口部構	崔	1	□ 戸・ガラスの性能・施工状態	A, C	l	
	建物出入	L区分b·b(i)」		1	□ 錠の数・性能・仕様・設置状態	A, C	l	
	の存する階		· · · · · ·	1	□ 雨戸等の性能・施工状態	A, C	適	適
	の住戸	又は共用階段)		'			•	•
		□ 対策あり		□ 施工図	□ ガラスの性能・施工状態	A, C	不適	不適
		口 雨戸等含む 牌	j k	□ 製作図	□ 雨戸等の性能・施工状態	A, C	1 1	
		口その他構	<b></b>	1			l	<b>i</b> 1
		□ 開口部なし な	<u> </u>	1	<u> </u>		l	<b>i</b> 1
			<u></u>	'			l	_!
	メゾネット	外部からの接近 開		□ 施工図	□ サッシの性能・施工状態	A, C		
	( 階)	が比較的容易 閉	<u></u>	□ 製作図	□ ガラスの性能・施工状態	A, C	l	<b>i</b> 1
		な開口部構構	É 走	1	□ 戸・ガラスの性能・施工状態	A, C	l	<b>i</b> 1
		[区分b(ii)] (構		1	□ 錠の数・性能・仕様・設置状態	A, C		
		(バルコニー等) り		1	□ 雨戸等の性能・施工状態	A, C	適	適
		□ 対策あり		'			•	
		□ 雨戸等会む 開		□ 施工図	□ ガラスの性能・施工状態	A, C	不適	不適
		ロスの研	1	□製作図	□ 雨戸等の性能・施工状態	A, C	1 1	
		日 閉口部なし 機構	ž F	]		- `		i
		な	2	1				i
		L	/	1			l	i
		その他の開口部 開		□ 施工図	□ 開口部の位置	A,B,C		
		[区分c] 閉	月	□製作図	□ サッシの性能・施工状態	A, C		<b>i</b> '
		□ ******   機		1	□ ガラスの性能・施工状態	A, C	l	i
		□ 対策のり 構		1	□ 戸・ガラスの性能・施工状態	A, C	l	i
		口その他り		]	□ 錠の数・性能・仕様・設置状態	A, C	適	適
		□ 開口部なし		1	□ 雨戸等の性能・施工状態	A, C	.	
		開	■ 口 有	□ 施工図	□開口部の位置	A,B,C	不適	不適
		閉	月	□製作図	□ ガラスの性能・施工状態	A, C		1
		機構	É	- 2011 -	□ 雨戸等の性能・施工状態	A, C	1 1	i
		な	2	]	I MAN A SETTING WELL POOR	11, -	1 1	i
		Ĺ		!				l
		評価対象外の	□有	□ 施工図	□ 開口部の大きさ	A,B,C	適	適
		開口部		□ 製作図		л,⊔,∪		
		η η η η η η η η η η η η η η η η η η η		2 200			不適	不適
				1			,	
				]		<b> </b>	1 1	i
				!				l

防犯に関することについては、メゾネット等で1住戸に2以上の階がある場合には、階ごとに本欄を作成する。

検査方法—A:実物の目視 B:実物の計測 C:施工関連図書の確認 ※の欄を工事施工者が記入のこと その2. 住戸評価用 住戸タイプ名称 検査対象住戸番号

	1.1 Ale -1	14-4	施	工状況報告欄	施工状況確認欄			
	性能表示事項※	検査項目 ※	変更 有無※	関連図書※	確認内容%	検査 方法	判定一次	結果 二次
音環境に関すること	衝擊音	上階界床 (最高) □ <b>等級5</b>	□有	□ 躯体施工図	□ 均質単板スラブ( mm) □ ボイドスラブ ( mm) □ 端部拘束条件 ( 辺)	C	適・不適	適 ・ 不適
	□選択	□ 等級4 □ 等級3 □ 等級2 □ 等級1		□ 内装施工図	□ 受音室名 ( ) □ 直接床構造 □ 乾式二重床下地構造 □ 発砲プラスチック系下地構造	C	1 1	7.0
	(上階)	口 該当なし			□ その他 <b>受音室の面積</b>	A, C		
				□ 内装仕上表	□ 床仕上材(	A, C	\ulder \	ماسد
		上階界床 (最低) <b>二 等級5</b>	□有	□ 躯体施工図	<ul><li>□ 均質単板スラブ(mm)</li><li>□ ボイドスラブ (mm)</li><li>□ 端部拘束条件 (辺)</li></ul>	С	適 ・ 不適	· 不適
		□ 等級4 □ 等級3 □ 等級2 □ 等級1 □ 該当なし		□ 内装施工図	<ul><li>□ 受音室名 ( )</li><li>□ 直接床構造</li><li>□ 乾式二重床下地構造</li><li>□ 発砲プラスチック系下地構造</li><li>□ その他</li></ul>	C		71,100
				□ 内装仕上表	<b>受音室の面積</b> □ 床仕上材 ( )	A, C		
(下階)	下階界床 (最高) □ <b>等級5</b>	□有	□ 躯体施工図	□ 均質単板スラブ( mm) □ ボイドスラブ ( mm) □ 端部拘束条件 ( 辺)	С	· 不適	· 不適	
		□ 等級4 □ 等級3 □ 等級2 □ 等級1 □ 該当なし		□ 内装施工図	<ul><li>□ 受音室名 ( )</li><li>□ 直接床構造</li><li>□ 乾式二重床下地構造</li><li>□ 発砲プラスチック系下地構造</li><li>□ その他</li></ul>	C		
					受音室の面積	A, C		
		下階界床(最低)	□ 有	□ 内装仕上表 □ 躯体施工図	<ul><li>□ 床仕上材 ( )</li><li>□ 均質単板スラブ ( nm)</li><li>□ ボイドスラブ ( nm)</li></ul>	A, C	適	適
		□ 等級5 □ 等級4 □ 等級3 □ 等級2 □ 等級1 □ 該当なし		□ 内装施工図	<ul><li>□ 端部拘束条件( 辺)</li><li>□ 受音室名( )</li><li>□ 直接床構造</li><li>□ 乾式二重床下地構造</li><li>□ 発砲プラスチック系下地構造</li><li>□ その他</li></ul>	C C	不適	不適
			□ 内装仕上表	<b>受音室の面積</b> <ul><li>□ 床仕上材 ( )</li></ul>	A, C			
					<del> </del>			

※ (第六面) は選択した等級のページに記入すること。

その2.住戸評価用	※の欄を工事施工者が記入のこと
住戸タイプ名称	
検査対象住戸番号	

			施	工状況報告欄	施工状況確認欄			
	性能表示事項※	検査項目 ※	変更			検査	判定	結果
	尹识公	*	有無※	関連図書※	確認内容※	方法	一次	二次
音環境に関するこ		上階界床	□有	□ 躯体施工図	<ul><li>□ 均質単板スラブ( mm)</li></ul>	С	適	適
٤	厚(重量床	(最高)			□ ボイドスラブ ( mm)			
	衝撃音)	□ 27cm以上		□ 内装施工図	□ 受音室名( )	С	不適	不適
	□選択	□ 20cm以上			□ 直接床構造	С		
	口否選択	□ 15cm以上			□ 乾式二重床下地構造			
		□ 11cm以上			□ 発砲プラスチック系下地構造			
		□ その他			□ その他			
	(上階)	口 該当なし		□ 内装仕上表	□ 床仕上材( )	A, C		
		上階界床	□有	□ 躯体施工図	<ul><li>□ 均質単板スラブ( mm)</li></ul>	С	適	適
		(最低)			□ ボイドスラブ ( nm)		·	
		□ 27cm以上		□ 内装施工図	□ 受音室名( )	С	不適	不適
		□ 20cm以上			直接床構造	С		
		□ 15cm以上			□ 乾式二重床下地構造			
		□ 11cm以上			□ 発砲プラスチック系下地構造			
		口その他			一その他			
		□ 該当なし	_ +	□ 内装仕上表	□ 床仕上材( )	A, C	\-I+	>-t-
		下階界床	□有	□ 躯体施工図	<ul><li>□ 均質単板スラブ( mm)</li></ul>	С	適	適
		(最高)		□ 内装施工図	□ ボイドスラブ (mm)		•	•
		□ 27㎝以上		□ 四装施工图	□ 受音室名 ( )	C	不適	不適
		□ 20㎝以上			□ 直接床構造 □ 乾式二重床下地構造			
	(玉)(此)	□ 15cm以上						
	(下階)	□ 11㎝以上			<ul><li>□ 発砲プラスチック系下地構造</li><li>□ その他</li></ul>			
		口その他		□ 内装仕上表	□ 床仕上材(	A C		
		□ 該当なし 下階界床		□ 躬委任工表	□ 水紅工物 ( mm)	A, C		
		(最低)	□ 1B		□ お貞平板ハノノ ( mm)			
		□ 27cm以上			□ 受音室名( )	С	適	適
		□ 20㎝以上			□ 直接床構造	C	,UE	
		□ 200m以上 □ 15cm以上			□ 乾式二重床下地構造		不適	不適
		□ 11cm以上			□ 発砲プラスチック系下地構造		1.10	1.00
		口その他			□その他			
		□ 該当なし		□ 内装仕上表	□床仕上材()	A, C		
						11(0		
							1	
							1	
							ĺ	
							ĺ	
							1	
							1	

※ (第六面) は選択した等級のページに記入すること。

その2. 住戸評価用 ※の欄を工事施工者が記入のこと 施工状況確認欄 施工状況報告欄 性能表示 **給**查項目 判定結果 変更 検査 事項※ \* 関連図書※ 確認内容※ 有無※ 方法 -次 二次 音環境に関するこ 軽量床 上階界床 □ 内装施工図 □ 均質単板スラブ( mm) 適 適 衝擊音 (最高) □ ボイドスラブ ( 対策等級 □ 等級5 □ 受音室名( С 不適 不適 口選択 □ 等級4 □ 直接床構造 C □ 乾式二重床下地構造 口否選択 □ 等級3 □ 発砲プラスチック系下地構造 □ 等級2 □ その他 □ 等級1 (上階) □ 内装仕上表 □ 床仕上材(  $A, \overline{C}$ ロ 該当なし □ 均質単板スラブ( □有 □ 内装施工図 上階界床 С 適 適 □ ボイドスラブ ( (最低) □ 等級5 □ 受音室名 ( С 不適 不適 □ 等級4 □ 直接床構造 С □ 等級3 □ 乾式二重床下地構造 □ 発砲プラスチック系下地構造 □ 等級2 □ その他 □ 等級1 □ 内装仕上表 □ 床仕上材( A, C ロ 該当なし 下階界床 □有 □ 内装施工図 □ 均質単板スラブ( С 適 適 (最高) □ ボイドスラブ ( □ 等級5 □ 受音室名 ( С 不適 不適 □ 等級4 □ 直接床構造 С (下階) □ 等級3 □ 乾式二重床下地構造 □ 等級2 □ 発砲プラスチック系下地構造 □ その他 □ 等級1 □ 内装仕上表 □ 床仕上材( 口 該当なし A, C 下階界床 □ 内装施工図 □有 □ 均質単板スラブ( mm) С 適 適 (最低) □ ボイドスラブ ( mm) □ 受音室名( □ 等級5 C 不適 不適 С □ 等級4 □ 直接床構造 □ 等級3 □ 乾式二重床下地構造 □ 発砲プラスチック系下地構造 □ 等級2 □ その他 □ 等級1 □ 内装仕上表 床仕上材( A, C □ 該当なし □ 認定書 透過損失 開口部 口有 ・北の開口部遮音等級表示 適 適 等級(外  $\Box T-1 \cdot \Box T-2 \cdot \Box T-3 \cdot \Box T-4 \cdot \Box$ その他 壁開口部) 東の開口部遮音等級表示 С 不適 不適 □T-1·□T-2·□T-3·□T-4·□その他 ・南の開口部遮音等級表示 口選択 北: 等級1 C $\Box T-1 \cdot \Box T-2 \cdot \Box T-3 \cdot \Box T-4 \cdot \Box$ その他 口否選択 東: 等級2 ・西の開口部遮音等級表示 C 南: 等級3 □T-1・□T-2・□T-3・□T-4・□その他 西: 該当なし

※ (第七面) は選択した等級のページに記入すること。

その2 住戸評価用

検査方法—A:実物の目視 B:実物の計測 C:施工関連図書の確認 ※の欄を工事施工者が記入のこと

その2. 住戸評価用			施工状況報告欄 施工状況確認機			事施工者:	か記人	のこと
	生能表示事項※	検査項目 ※	変更			検査	判定	結果
	<b>事</b> 垻X		有無※	関連図書※	確認内容※	方法	一次	二次
と撃	量床衝 音レベル 減量(床	上階界床 (最高)	□有	□ 内装施工図	□ 受音室名( )	С	適	適
仕	上構造)	<ul><li>□ 30dB以上</li><li>□ 25dB以上</li></ul>			□ 直接床構造 □ 乾式二重床下地構造	С	不適	不適
(_	上階)	<ul><li>□ 20dB以上</li><li>□ 15dB以上</li></ul>			<ul><li>□ 発砲プラスチック系下地構造</li><li>□ その他</li></ul>			
		<ul><li>□ その他</li><li>□ 該当なし</li></ul>		□ 内装仕上表	□ 床仕上材( )	A, C	=	
		上階界床 (最低)	□有	□ 内装施工図	□ 受音室名( )	С	適	適
		□ 30dB以上 □ 25dB以上 □ 20dB以上			□ 直接床構造 □ 乾式二重床下地構造 □ 発砲プラスチック系下地構造	С	不適	不適
		□ 15dB以上 □ その他		□ 内装仕上表	□ その他 □ 床仕上材( )	A, C		
(-	下階)	<ul><li>□ 該当なし</li><li>下階界床</li><li>(最高)</li></ul>	□有	□ 内装施工図	□ 受音室名( )	С	適	適
		(取尚) □ 30dB以上 □ 25dB以上 □ 20dB以上			□ 直接床構造 □ 乾式二重床下地構造 □ 発砲プラスチック系下地構造	С	不適	不適
		□ 15dB以上 □ その他 □ 該当なし		□ 内装仕上表	<ul><li>□ その他</li><li>□ 床仕上材( )</li></ul>	A, C		
		下階界床 (最低)	□有	□ 内装施工図	□ 受音室名( )	С	適	適
		□ 30dB以上 □ 25dB以上 □ 20dB以上 □ 15dB以上			□ 直接床構造 □ 乾式二重床下地構造 □ 発砲プラスチック系下地構造 □ その他	С	不適	不適
		<ul><li>□ その他</li><li>□ 該当なし</li></ul>		□ 内装仕上表	□ 床仕上材( )	A, C	-	
等	級(外	開口部	□有	□ 認定書	・北の開口部遮音等級表示 □T-1・□T-2・□T-3・□T-4・□その他	С		
	開口部)				<ul><li>・東の開口部遮音等級表示</li><li>□T-1・□T-2・□T-3・□T-4・□その他</li></ul>	С	適	適
	]否選択	北: 等級1 東: 等級1			<ul><li>・南の開口部遮音等級表示</li><li>□T-1・□T-2・□T-3・□T-4・□その他</li></ul>	С	不適	不適
		南: 等級1 西: 等級1			<ul><li>・西の開口部遮音等級表示</li><li>□T-1・□T-2・□T-3・□T-4・□その他</li></ul>	С	-	

※(第七面)は選択した等級のページに記入すること。